

荒茶の生産量1,325tとなる

＝昭和39年産茶生産量＝

去る2月茶の生産量の調査結果が農林省茨城統計調査事務所より発表されました。

生葉生産量

茶期別生葉生産量 (単位t)

	年間総数	1番茶	2番茶	3番茶	冬春秋番茶
昭和39年	5,404	3,639	773	562	430
昭和38年	5,192	3,434	831	545	382
差	212	205	△ 58	17	48

荒茶生産量

茶期別、茶種別荒茶生産量 (単位t)

	年間総数	1番茶	2番茶	3番茶	冬春秋番茶
昭和39年	1,325	835	192	142	156
昭和38年	1,278	810	202	135	131
38年との 比較	{ 差 % } 47 103.7	25 103.1	△ 10 95.0	7 105.2	25 119.1
39茶種 年別	{ ぶせ茶 普通せん茶 番茶 紅茶 } 1 1,167 157 0	1 833 1 —	— 192 — —	— 142 — 0	— — 156 —

1 栽培面積と栽培農家数

本県の茶栽培面積は14,519ヘクタールで前年よりやや増反された。新植は27ヘクタールで、そのうち25ヘクタールは県西地域である。

栽培農家数は、2万8千340戸で前年より1千100戸減少した。減少の主な原因は、動力耕耘機の普及による散在茶園栽培農家が整理されたものと考えられる。

2 生葉生産量

本年の生葉生産量は、5千404トンで前年5千192トンに比し212トン、4.1%の増となつた。これは4月下旬県北部の一部に降霜があつたが、その被害は比較的軽微にとまり、その他は全般的に好気象に恵まれ、生育が順調に経過し茎葉の伸長もよく葉質も充実し反当収量の増加と、未成木園の成園化による摘採増によると考えられる。

3 荒茶生産量

本年の荒茶総生産量は、1千325トンで前年に比し47トン、3.7%増となつた。茶期別にみると、2番茶を除いて各茶種とも生産量がふえている。

普通せん茶は、荒茶生産量の88.1%を占め、本年は1千167トンで前年より25トン、2.2%増となつた。番茶は、価格の強含みから、157トンと前年より21トン増産を示している。また、県内の紅茶生産量は極めて少なく、増産計画により逐次増反の途上にあるが、本年より試作品として若干、生産された程度となつている。

4 機械製茶工場数

本年の機械製茶工場は、165工場に前年より3工場の新設、1工場の廃業となつているが、地域別の製茶工場数は、北部62、西部91、南部11、鹿行1、となつている。

3月の消費者物価(水戸市)

本年3月の水戸市の消費者物価指数は、総合で134.5となり、前月の132.4に比べて1.6%上昇した。これは野菜が季節的に出まわり薄のうえ、異状乾燥による不作も加わつて、28.5増と高騰したことが主因であるが、菓子果物(7.0%増)乳卵(6.8%増)、家賃地代(6.2%増)などもかなり上昇した。一方魚介(5.0%減)乾物(3.8%減)などは下落している。また野菜、魚、果物など生鮮食料品を除いた指数では0.5%の上昇となつた。

水戸市の消費者物価指数 (35年=100)

	総合	食料	穀類	その他の食料	住居	光熱	被服	雑費
昭和39年3月	121.8	124.3	111.3	129.3	121.6	104.5	120.9	120.7
昭和40年2月	132.4	136.3	128.0	139.5	127.7	105.2	137.5	128.7
〃 3月	134.5	139.6	128.6	143.9	129.7	105.1	138.0	129.1
対前月比(%)	1.6	2.4	0.5	3.2	1.6	-0.1	0.4	0.3
対前年同月比(%)	10.4	12.3	15.5	11.3	6.7	0.6	14.1	7.0